

## 第13回ゴミパイプライン協議会

会議名	: ゴミパイプライン協議会
開催日時	: 2017年9月30日(土) 10:00~12:00
場所	: 芦屋市環境処理センター会議室
参加者	
利用者の会より	: 山口委員長、友田副委員長、大永委員、長谷委員、春木委員、三宅委員
市より	: 北川部長、森田課長、藪田主幹、尾川係長(司会進行)、林パイプライン担当
傍聴者	: 12名

○市 それでは、定刻になりましたので、始めさせていただきますと思います。

環境施設課、尾川です。よろしくお願いします。

きょうは、長谷委員さんがちょっとおくれて来るという連絡がありましたので、先に始めさせていただきます。

それでは、まず資料の確認ですけども、配付資料としまして、まず次第ですね。それで、次に資料1としまして、パイプライン運転報告、資料2としまして経費削減取り組みの検証、資料3としまして、今後のパイプライン施設に関する提案の説明会の報告、それとあと最後に1枚、カラーのやつですね。「地下ピットの利点」と書いている資料になります。過不足ある方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、次第に沿って始めさせていただきますと思います。

まず議題1、パイプライン運転報告についてということで、資料1となります。

環境施設課の林のほうから説明させていただきます。

○市 おはようございます。芦屋市の林です。

議題1といたしまして、パイプライン運転報告で、前回の報告につきましては8月20日までの報告でしたので、それ以降1カ月間で発生しましたトラブル等について報告させていただきます。

まず、お手元のエクセルのファイルですね、パイプライン運転報告(トラブル等対応記録)、こちらをご覧くださいまして、ちょっと説明させていただきます。

まず、表面のほうにシステム異常発報対応、裏面のほうに利用者からの連絡対応、これは実際、利用者から環境施設課、また運転の委託業者さんに連絡があった分で、最後にその下で巡回及び定期点検で見えられた不具合点等の、この3点について報告させていただきます。

まず、表面のシステム異常発報について報告させていただきます。全て報告するのは時間がかかりますので、幾つかピックアップさせていただきます。

今月に関しましては3回閉塞が発生しました。これらにつきましては、運転の委託業者さんが、投入口の下のパット内での作業を行い解消されております。洗浄車等は呼んでおりません。また、今回の閉塞につきましては、その対象の投入口のみでしたので、その他の投入口に波及していません。

まず表面のほうで、8月21日月曜日なんですけれども、こちらは6時24分、センターブロワ分離機で、これは圧力異常なんですけれども、これは朝の定時運転中に起こりました。運転中に閉塞が発生し、圧力が高くなり、異常でシステムが停止しました。こちらにつきましても朝、運転業者さんが、その投入口に行きまして、パット内のごみを取り出したり、またごみが閉塞している場所が点検口から近かったこともありましたので、入管をし、空気の通る穴をつくりまして、何とか運転を繰り返しして閉塞を解消しております。

また、その他についてなんですけれども、8月29日16時9分、8月30日9時14分、9月3日22時32分、9月7日15時15分、この4件については、それぞれ新聞紙や猫砂や大量の草木が残留していました。こういう場合は、業者が現場に行きまして、ドラム等の正転や逆転を繰り返して解消させています。

また、作業内容につきましては、今回全数で15件あったんですけれども、そのうち7件が中央でのモニター等での作業で解消したので、半分以上は現場に行かず対応しています。

一番下のところなんですけれども、過去3年間の件数を比較したものを書いております。平成27年度が15件、平成28年度が30件、平成29年度が15件。去年度の平成28年度に関しましては、閉塞等が発生しておりましたので、増えております。

続きまして、裏面の、利用者からの連絡対応をごらんください。

こちらの件数に関しましては、全部で8件ございました。うち3件が、鍵が回りにくい、固いという連絡、また、3件がバケットの詰まり等、1件が誤投入、もう一件がその他として、取手が外れているという連絡があったんですけれども、実際行ってみたら取手は外れてなく、周囲の投入口も確認したんですけれども、そういったことはありませんでした。

こちらの誤投入について状況を確認したんですけれども、捨てようとした袋の中に必

要なものが入っていて、それを間違えて投入したそうです。地下のドラムのところを捜索し、全てではないんですけども、一部市民の方に返却しております。

こちらのほうは、その下に3年間の件数を書かせてもらっています。こちらはちょっと波があるんですけども、27年度が1件、28年度が12件、29年度が8件となっております。

最後に、巡回及び定期点検で発見された不具合点等につきまして、前のプロジェクターでも併せて報告させていただきます。また、先ほど説明させてもらった、今月については3件あったんですけど、そのうち残りの2件のほうも併せて報告させていただきます。

8月28日、3031輸送管閉塞、またこちらのほうは巡回点検なんですけれども、システムの異常の発報ではありませんでしたので、何人作業して、何分かったというのは、正確な時間はわかってませんので、大体の時間だけ報告させていただきます。

8月28日ですけども、夕方ごろこちらの閉塞が確認されまして、翌日、29日火曜日16時ごろ復旧しております。こちら先ほど説明させてもらったとおり、ピット内に入りまして、ごみを取り出したりほぐしたりして解消しております。

続きまして、8月31日、投入番号が3149、マンションの投入口になります。

左手のところ閉塞箇所になります。こういった閉塞に関しましては原因というのはちょっとわからないんですけども、輸送管で吸引したときに、何か詰まったような感じになります。これも点検口から近かったので、作業員が入りまして、先端部分のごみを排除して通気運転をかけ解消させました。

右手のほうに写真を載せているんですけども、一部現場の方も驚いたごみがあったので。これも掲示はしているんですけども、2リットルのペットボトルに水という液体が入ったものが投入されておりました。啓発といたしまして、掲示もさせていただいております。

続きまして、9月11日、投入番号は3052です。こちら点検中に確認されておまして、こういった瓶や土砂であるとか、ちょっと写真ではわかりにくいんですけども、こちら先ほどの3052の周囲の投入口に合わせて5カ所ほど掲示板に設置させていただいております。

最後に9月12日ですけども、場所はこちら、南芦屋浜の海洋町になります。投入番号が33068。こちらのほうで水中ポンプですね、投入口の下は小さい部屋になってお

りまして、雨が降ったりするとマンホールから水が入ったり、壁面からも水が入るとということが確認されておりますので、投入口ピット下にはこういった水中ポンプが設置されております。これは排水するためのものですが、ちょっとフレキのところ破断しております、これは交換予定になっております。

議題1に關しましてのパイプライン運転報告については以上になります。

○市 ありがとうございます。

それでは、この議題1、パイプライン運転報告について何かございますでしょうか。

○利用者の会 資料をありがとうございました。

前回お願いしたのは、このことを掲示板だけではなくて、それぞれの組織の理事長なり自治会長さんに、きちっと文書で渡さないといけないというお話をさせていただいたんですけど、それはどうでしょうか、今回。

○市 今回につきましては、掲示板のみの対応としております。

○利用者の会 利用者の会も、5日だったと思うんですけどありますので、このことはきちっとそれぞれの責任者の方にお話はしますが、ぜひ市からもこういうことをやっぱりその都度しないと、これは終わらないと思うんです。もう本当に追っかけっこになるんですけど、徹底しないといけないなど。

それともう一つは、去年は出したと思いますが、ワーストを出してほしいんですよ。いつも同じ投入口が起こっているなら、それはやっぱり歯どめをかけていかないと終わりませんので。今月もありました、次もありましたということであれば、そこはやっぱり徹底的に私たちも何とか直さないと、本当に無駄なお金と無駄な時間がかかっておりますので、ちょっと注意するだけなんです。

特に、捨てる方は絶対に、私たちのこういう話し合いとかは聞いておりません。知ってる方はそういうことをしませんので、やっぱり徹底しなきゃいけないので、最低でも何か、累積でいいですからワースト、今のところワースト1位はここですよと、ここはことしの1月から何回起こりましたとかね。そうすると、そこにまた私たちは行くなり、市の方も自治会長さんに会うなりしてやらないと終わらないかなと思います。

○利用者の会 今の件ですけれども、今後こういう形で写真も撮られるということであれば、山口委員長は御多忙ですから、私、友田宛てに、友田のEメールは御存じだと思いますので、写真を送っていただきたいと思います。それで、私のほうからゴミパイプライン利用者の会として、当然、市からもまた連絡が行く、していただきたいと思

いますけれども、その管理組合の理事長もしくは自治会長さんに、これは最近結構、もうメールが、40団体ぐらいございますけれども、もう手間暇かかりませんから、そういう形でメールで理事長様のほうに状況を報告させていただきたいと思いますので。

お願いは、今後発生したらもう遅滞なくその投入番号と、それから団地名ですね、そこを、例えば私やったら高浜の7番とかそういうの投入口とか、わかりやすく、そのまま言っただけであれば、私はその日のうちに理事長もしくはその方、もしくはメールのないところは訪問してちゃんとお届けしますので、済みませんが。

やっぱり今後、20年もたさないかんで、私どもも襟を正して使い方をやっていくと思いますから、ぜひ友田宛てに写真あればください。利用者の会として連絡はします。それプラス、理事長様にも今後、話として、Eメールのアドレスを開示していいかどうか、それを確認してから、オーケーであれば市役所のほうからもちょっと気をつける、両方からお願いしたいと思いますので、よろしく。

以上です。

○利用者の会 どうも御苦労さまです。利用者の春木です。よろしくお願ひします。

毎月こういう資料を出していただいて、非常にありがたく思っているんですが、それにしても再発事例が毎月非常に多いなど。これだけ熱心に皆さんが活動されている中で、非常に残念な思いをしています。新聞紙とか猫の砂やとか大量の草木やとか、いろんなことで再発しているということなんですが、1ページのどこを見ても、一番上では作業員5人で510分もかかったと。普通やったら、これ、費用どれだけかかったのかなと思うね。費用、余分に。

そやから、こういうふうなことも一番最初するときにも言わせていただいたんですが、民間ではこれを金に換算するんですね、金に。これだけコストかかっているんやぞと。で、今月はこれだけコストかかったんや、余分な費用かかったんやというようなことを、皆さん非常に熱心にやっている中で、例えばこのパイプラインに関係ない人たち、議員さんやとか市長やとかがこういう現状を知られたら、それを思うと非常に心苦しいというか、残念な思いをしています。したがって、こういう再発防止対策についてはいろんな意見あるんですけど、一度またワーキンググループでも議論したらどうなんかなと思いますね。どうやってこの再発防止をやっていくんやというようなことをですね。

2ページ目にしても、まだバケットの詰まりもちょっと起こっていますね。そやから、

この辺もやっぱりまだ住民の皆さん、「何でや」というのを御存じやない部分もあるん違うのかなという気もしていますし、ペットボトルにしてもそうですね。これらを集めたら、自治会でもお金をもらえて非常にいいことなんですが、そういうことでぜひコストやとかその辺も含めてやっていただいて、できればワーキンググループででも何か再発防止対策を議論したらどうかなと思っています。

住民起因のものが非常に多いんですが、この辺をできる限り再発防止を進めていって、こういう余分な費用を減らしていくと、そういう活動をしてるんやと、一生懸命やってるんやということも、議員さんやとか市のトップの人にも理解してもらえるように、また実際に効果が出ていくようにぜひお願いしたいなと思います。

以上です。

○市 それでは、よろしいでしょうか。

それでは、次の議題2、経費削減の取り組みの検証についてということで、尾川のほうから説明させていただきます。

資料2となります。

毎月の報告なんですけども、毎月同じことを説明していますので、3番の電力入札によるパイプラインに係る電気代削減額、ここだけを説明させていただきます。

8月分ですが、芦屋市の環境処理センター全体では電気代が878万円という形になります。これが去年度までの関西電力であると1,137万3,751円ということで259万円ほどの削減になります。この中のパイプラインに係る分の電気代というところに特化して考えますと、8月分の電気代は221万3,988円ということになります。これが去年度までの関西電力になりますと337万6,486円ということで、削減金額としまして116万2,498円という形になります。

4月から順調に毎月115万円、116万円前後の削減になります。合計としまして、4月から8月で579万1,838円、順調に削減できております。

資料2、削減の取り組みの検証としては以上です。

何かございますでしょうか。

○利用者の会 利用者の会の山口です。御苦労さまです。

私もこれだけできたのでうれしい限りなんですけども、1つお聞きしたいんですけども、使用電力量というのが8月は上がっています。当然、金額が下がるのはそれでうれしい限りですが、やっぱり電力量も何とか下げることができないかということで、いろ

んな検討をしていますけど、去年の8月と比べてこの量は多いんですか、少ないんですか。

○市 去年よりは少し上がっております。原因というのも、ブロワの運転時間というところに起因している可能性があります。あと、先ほど林から説明がありましたように、通気運転という形で、トラブルがあって、それをほぐすためにブロワをかなり運転しておりますので、電力量のほうはどうしても上がっております。

○利用者の会 今、それで電力量が上がったと言われましたけど、先ほどにつながるんですけど、やっぱりロス、コスト、当然そういうことを解消するために、そういう大きな600キロワットのファンを回してますし、そういう費用がそれに起因するのであれば、それも含めてこだけ費用かかっているんですけどとアピールすることも非常に大事やと思っています。したがって、その辺また、できたらワーキンググループででも議論してということにつながっていくんですけど、ぜひその辺、住民の方に目に見えてわかるような損失、ぜひよろしくお願ひしたいなど。ちょっと割り込んで済みません。

○市 具体的な話をしますと、やっぱり今までブロワの運転時間を300分、5時間というのは1つの目安、300分以内という形でやっていて、ワーキンググループのほうでもいろんな運転方法を変える、朝の時間に捨ててもらうだとかいろいろやってもらって、かなりいい形で削減はできてきてたんですけども、どうしてもやっぱりトラブルがあって通気運転になると、例えばそれが340分であったり、せっかく、調子がええときは220分とかいう形で、かなり少ない形でそれなりに、捨てられへんやないかという苦情もなくうまいこといったんですけども、やっぱり先ほどの何件かのあれですね、あれをほぐすためだとか、穴をあけて引っ張るためだとかいう形でやっていると、その日というのはどうしても300分をはるかに超えたような形になってしまっていると。それが積みも積もってという形で、ちょっと電力量はふえてるような形になって。

ただ、去年と比べて通常時のあれが減ってますので、ふえる幅としてはちょっと抑えられてるといふ、効果としてはありますけども、そういう形で、それも数値化という形で、ちょっとなかなか数値を金額に直すのは難しいですけども、通常が例えば250分の運転であって、340分になるのであれば90分ブロワが余分に動いているということで、簡単に言うたら650キロワット掛ける1.5時間掛ける十何円という分ですね、それが1日かかってしまうという形。だから、800の、そうですね、1万円近くという形になってしまいます。

○利用者の会 その辺、算定条件をある程度決めといて、それと当然、起動・停止を何回も繰り返すことになるので、それ。

○市 ちょっと起動・停止の金額はなかなか難しいですけど。

○利用者の会 いやいや、それはもう算定条件で、やっぱりロス金額なんかも含めてどんだけ被害をこうむってるんやいうのを、やっぱり住民とも共有すべきやと思う。

○市 今年度は契約を変えることによって単価が下がっていますので、電気代は下がってまずけども、電力量としては少し上がっております。

○利用者の会 利用者の会の山口です。

ということは、まとめると、何とかその費用削減をしたいということで、入札制度で下がると。それから、ブロワの運転時間をいろんな工夫してやろうということで、これも多少は下がったと。ただし、私たちが原因で詰まらせた場合の、何というんですかね、目で見えないコストといいますか、そういうものがプラスされてるんだと考えられると思います。

それで1つ提案なんですけども、資料1で例えば一番上、この8月21日、作業員5人で510分というのがありますけど、今、作業員の方で、人件費としては4,000万円ちょっとぐらいを年間払っていますので、それで恐らく1分当たりのコストって出ると思うんですよ。だから、そこに備考ってありますので、じゃあ510分かかって幾らお金をここで使ったんやというのは出せると思うんですね。

ですから、私たちは外部にかかる費用ばかり考えていたんですけど、実は内部にこうやってミスをする、これは利用者の原因でこういうトラブルがあったんだ、金額として、春木さんおっしゃるようにきちっと出さないとその後の対策が打てませんので、よかったらその金額を、そんなに難しい計算じゃないと思いますので、幾らこれがかかったんやという目で見える形にすると、これは手を打たないかなということもわかってくるので、ぜひともそれをお願いします。

○利用者の会 済みません、遅刻しまして申しわけございません。

せっかくなので、この資料なんですけど、もう1項目ふやしていただいて、使用電力量という形をつくっていただければ、もう少しわかりやすいかなと思うんです。

○市 使用電力量、入っています。

○利用者の会 ごめんなさい、だから、去年と比較してという、そういう対比表をつくっていただくと、これによっていかに効果があったかというのが一目でわかるというこ



とで、そのほうがいいんじゃないかなと思います。

ほかにもちょっと追加してもらいたいデータがありますけど、その辺はちょっと春木さんに任せて。

○利用者の会 いや、言いたいことはわかるので。

○利用者の会 いや、それやなかったら。

ここに工事請負費の削減いうのが入っていきまして、その中に安価な補修方法の実験検討中というのがあります。輸送管の補修費用いうのが非常に大きなところなんですけど、恐らく利用者の会の中にも、この関係でプロの方もおられると思うんですね。そやから、その辺の意見なんかも参考あるいは取り上げていただいて、ぜひ今後とも輸送管補修費用の低減については取り組んでいただきたいなと思っています。

工事の方法としては、現場いうかローカルでやるのか、それともセンターでやるのかとか、その辺もあると思うんです。センターやったら、1系列、例えばフランジとフランジの間を外してとか、やりやすい、それだけを考えればセンターのほうがやりやすいなと。その部分、センターのほうが通る回数も多いですしね。まあ、この辺は実際にやられてる方々で検討いただいたらええと思うんですが、ぜひその辺もまた聞いていただいて、進めていただきたいなと思うてますので、よろしくをお願いします。

○市 それではよろしいですかね。

議題3に進めさせていただきたいと思います。

今後のパイプラインに関する提案ということで、環境処理センターの藪田から説明させていただきます。

○市 環境施設課の藪田です。よろしくをお願いします。

それでは、議題3です。今後のパイプラインに関する提案についてということで報告をさせていただきたいと思います。

前回の協議会でご説明させていただきまして、いろいろなご意見がありました。反対意見とかもございましたが、おおむね了承を得たのかなと思いましたが、この提案につきまして、8月30日に利用者の会からは山口委員長と友田副委員長、それと大永代表幹事、それと我々のほうは北川部長と森田課長、私、この5人で市長と副市長に会いまして、この内容とそのとき出た意見なんかを説明させてもらって提出してきたということでございます。

市長からは、市民と行政、1年間一生懸命取り組んできたことに対して非常にご苦労

さまでしたということで、何度もねぎらいの言葉をいただいております。

この提案の内容的にも、おおむね反対はなかったのかなと思っております。今、利用者の会で各住民さんに対していろいろ説明をしていただいておりますので、その意見も、また市長や副市長に報告していこうかなと考えております。それらの意見を受けてから、市のほうでは考え方を整理していこうかなと思っておりますので、市の考え方というのはもう少しお時間いただきたいなと思っております。

議題3につきましては以上でございます。

○市 議題3に関しまして、何かございますでしょうか。

それでは、次第に沿いまして議題4ということで、今後のパイプライン施設に関する提案の説明会の報告ということで、資料3、山口さんのほうから説明をお願いします。

○利用者の会 利用者の会の山口です。

資料3をお手元に用意していただいて、この説明をいたします。

9月から土日ですね、主に私と友田さんの2人で手分けをして、芦屋浜、南芦屋浜の各自治会、管理組合のそれぞれの委員会に出させていただきます。そこで約1時間ほどの時間でそれぞれの理事の方、委員の方に説明をいたしております。現在の状況、24日までは、25の組織、それから議員の方で15名、議員の方は今、議会がありますのでなかなか調整が大変ですけども、3回説明会を開いて、この人数の方が来られています。基本的には、この提案書に関する反対意見というのは1つも出ておりません。よく理解できたということでした。

それで、まだやってない地域がありますので、10月にもやろうということで、9月、10月は議員の方及びそれぞれの理事会の理事の方と自治会の役員の方に説明すると。そして、11月からは、今度は直接住民の方に集会所で説明をさせていただくと。これは今日程調整と、理事会と役員には配っている要約版みたいな、7ページぐらいのものがありますので、これを今、A3の1枚両面にまとめて全戸配布を考えております。全戸配布をした後にそれぞれの集会所で、今度は直接住民の方の意見をお聞きしたいということで動いております。

今まで出た意見というのをここにまとめました。全部ではありません。主な意見をここにまとめております。これを一個一個、これからご説明します。

まず最初のページで1、各管理組合、自治会から質問なり意見が出たものを申し上げます。

1 番目、パイプライン施設を維持管理する制度上の責任が芦屋市にはあるのではないかと、これは本来、私が説明するよりは市の方が説明されたほうがいいと思うんですけど、私のほうで説明したのは、60年代にできたものに関しては全くパイプラインと同じ問題を抱えてて、当時はつくるのが精いっぱいなので、その後のメンテ、更新をどうするかということは、内閣府の責任者の方も言うておられますけども、残念ながら考えてなかったということで、今一生懸命、これからどうするのかということ国挙げてやろうとされてます。

それから当然、パイプラインの焼却場の施設の方も、市の方も非常に少ない人数で、恐らくそこまで手が回らなかったのではないかと思います。このパイプラインを維持管理して、延々ずっと続くためまだ物凄いお金がかかりますので、今回の私たちの提案の60年というのは適切かなと私は思います。

この間、3日か4日前にテレビでアメリカの事情がありまして、今は日本と全く一緒です、アメリカは。橋、道路、トンネル、もう一つあるんです、アメリカでは、ダムです。もう橋、落ちました。ダムがもう漏れ始めました。これは1930年代で、大恐慌のときにつくったダムなんですよ。漏れ始めて、さあどうするかという議論があって、今は日本以上にアメリカはせっぱ詰まってまして。

これは恐らく市の責任はそれなりにあるとは思いますが、現実的にどうするのかというほうが私は大切だと思っております。1番はこのように、私どもは答えました。

2 番目、パイプライン施設に関して、他国の状況はどうなってるのか、ちゃんと調べてるのかというお叱りを受けまして、そういうあんたが調べればと私は言ったんですけども。スウェーデンに住んでおられたんですよ。だから、物すごい技術者で詳しい方です。

それなんで、私はスウェーデン大使館にメールを出しました、その後。速水さんという方から返事が来まして、速水さんが、ここに書いてある the Swedish Waste Management Associationというところに連絡をとってくれと言われましたので、私のつたない英語でここにメールを出しまして。

私たちはスウェーデンから学んだんですよ。1961年に病院で最初にされたのはスウェーデンです、世界で最初に。それを私たちは勉強して、今はパイプラインを入れたんですけど、40年たって非常に更新とか補修で大変な目に遭っておりますので、スウェーデンは一体どうされてるんですかと。廃止するんですか、続けてるのか、もし続け

であれば、どんな補修の仕方をどういうふうにされてるんですか、お金はどのぐらいかかるんですかということ詳しく英語で書きまして、このアソシエーション組織に出したところです。

まだ返事は、残念ながら来てません。すぐには来ないと思います。まあ、そういうことで。

3番目、2番と同じ方がまたおっしゃったんですけども、利害関係者が複雑になっているということをおっしゃったんですね。当然、高層もあり、中層もあり、タウンハウスもあり、一戸建てもある。しかも、賃貸があり、所有者があると。それからもう一つは、その利害関係が上のほうの山の方もあるんじゃないかと。その辺の調整をどうしていくんですかというお話がありました。

今回は、私の返事では、各それぞれの組織、まず浜の組織に関しては9月からスタートしてやりますと。住民の方には、11・12月、2カ月間かけて説明します。それから、山の方に関しては直接のつながりがないので、自治会などを通してまずアンケートをとって、それから上のほうにどんな問題があるかとか、そういう辺をひとつ考えていきますと同時に、私たちはごみビジョンというものをひとつ考えていこうというのがありまして、このごみビジョンは浜だけのメリットじゃなくて、芦屋市全体のことを考えることになってますので、その辺も含めて調整をしていこうというお話をしました。

4番目、週5回の妥当性はどこにあるのかということで、上は週2回じゃないかと。下だけ週5回は、ちょっとそれはやり過ぎではないかとはおっしゃいませんでしたけど、その妥当性は何かということをおっしゃる。

私たちは今、大体平均で1日2回ごみを収集してるんです、ブロワでばっと引っ張って。ということは、それだけごみが多いということなんですよね。だから、それを週2回にしたら、当然ごみはあふれてどうしようもない状態になりますので、このためにある程度の回数は必要だと。しかしながら、全部の投入口が、じゃあ週5回かというところ、そうでもないところはあるだろうと。それは当然その段階で、今じゃなくてその段階でごみ量とか貯留施設とか、その辺の大きさとかも考えながら再検討させてくださいというお話をしております。

次の5番目、パイプライン施設廃止後にごみ袋の有料化を考えているのでしょうかというご質問がありました。

これは、たしか私の記憶でもそういうことは考えてないと聞いてますので、考えておりませんと答えをしました。

6番目は、2と3を質問した同じ方です。スウェーデンに戻すんです。技術者の方なので、上下水道はケーシング（ライニング）をしながら補修を行ってるが、どんな補修をしてるんだとかでお叱りを、何で私が叱られないかんのやと思ったんですけども。

ことしの1月からライニングでテストをしておりました。上下水道は固形物が流れませんのでいいんでしょうけども、残念ながら私たちのこのパイプラインの施設は固形物が流れて、FRPの消耗度が非常に激しい。しかも、金属片が刺さってひび割れも発生してるので、なかなかうまくは行ってないという状況は説明しました。しかもメーカーが、このパイプラインの補修に関して補償をするとかそういうレベルではなかなかなくて、仕方なくやってみようかみたいなレベルですというお話はしました。

7番目、最終判断は市長ですかということで、審議会の答申を受けて市長が最終的に判断されると思います。その判断材料にしてもらうために、この提案書をつくりましたということを答えています。

それから、管理組合・自治会内の皆さんにどう伝えたらいいのでしょうかということで、それぞれの管理組合の力量によると思うんですけども、もう既にきちっと説明されてるところもございます。私のほうは、先ほど言いましたように、A3両面で、パイプライン通信1号というのを5月に配ってますので、その第2号として今それをつくっております。それを7,500部刷って、全戸配布しながら住民説明会をしようと思えます。前回の住民説明会をして、なかなか集めるのが大変でした。ですから、今回はちょっと工夫をしたいと思っております。

それから9番目、これは非常に積極的な意見でびっくりしたんですけど、利便性は利用者にとって悪くなるが、投入口を減らしたらどうか。減らすことによってお金が浮くんじゃないかと、要らん投入口は削れという主張だったんですけど、いろんな意見はあると思いますけども、逆に減らすとクレームは当然出てきますので、今後、代替案を検討する中で、何カ所置くのかということを検討したらどうかということをお話ししました。

代替案設置ではもめるのではないのでしょうかという意見が10番です。時間はまだ15年もあり、その移行期間として5年置いてますので、その中で検討していきますという答えをしました。

11番目、廃止する場合は全部一緒に一度にするんですかということで、一度にはしませんと。移行期間は5年ありますので、じっくり取り組みたいということでやっていますと。

それから、12番目、これから社会インフラのメンテにお金がかかるということを考えると、新たなシステムを入れることはないと思われるということで、お金のことを非常に心配されて、私もそう思いますと。今後、大きな機械システムを導入することは、人口減とメンテナンスを考えると非常に難しいということだと思いますということで答えました。

パイプライン施設の問題は、まちづくりと並行して考えなければならないと。まさしくそうです。私たちは、そのまちづくりも考えながら、まちづくりの中で住民がいかに自分たちの意見をそれに入れていくのか。単なる今までの反対だけでは問題は解決しない。市と一緒に、一体化して提案をしていくと。私たちのこの地域は、中層、高層、タウンハウス、戸建てと非常にいろんな形態があり、しかも民間、県、市営、いろんな状態がありますので、その中でまちづくりをどうしていくのかというのが、今後の問題としてやっと第一歩が踏めたなという感じがしております。

14番目、寿命があることを知っていて、私たちに売りつけたというのではということで、受け取り方によってはいろいろあるでしょう。だけど私は、市の方も一生懸命やられたと。内閣府の方がお話ししたように、残念ながら、高度成長時代につくったものはそこまで考えてなかったということだと思います。私たちは、そういうことを言うよりは、どうしたらこの問題を具体的に解決できるのかというふうに私たちのパワーを割きたいと思って提案書をつくりましたという話をしています。

それから、中層とか高層は下までごみを持っていかなきゃいけないという話がありましたので、これはそうです。市にはさわやか収集がありますけども、それ以外で何とかサポートするものを、利用者の会そのもの、各自治会、管理組合でも考えていく必要があると思います。

次のページは、議員の方の説明ですね。議員の方にお集まりいただきまして、私どもで3回に分けてご説明をしました。さすが議員の方だなという質問も幾つかあります。

まず1番目、計画した予算。今回、こんだけ予算がかかりますよというのをいろいろ試算してますけど、それをオーバーするときどうするんやというお話です。なぜかといえば、市議会の方々、市の議員の方は、予算を承認するという、自分たちにそうい

う大きな責務があるので、予算オーバーしました、何とかしてくださいじゃあかなというお話をされましたので、その辺も含めて私たちは、それぞれ10年、15年、30年として、私たちの民間の経験、知恵、それから市の経験も踏まえて今回そういう試算を出しておりますというお話をしています。絶対100%予算をオーバーするとは一言も、私は答えておりません。可能性はゼロではない。

2番目、パイプラインを使用していない市民の立場から考えると、集積施設を公費を使って支出するのか、または週5回収集というのがいいのかということで、その辺はやはり上の方の市民の方の理解も含めて、ソフトランディングしていくほうがいいのではないかとご提案をいただきまして、ごもっともですと。だから、私たちもいろんな形でいかにソフトランディングするかということを考えていきたいと思います。その中で、芦屋市のごみビジョンとかその辺も含めて、いろんなことを今後ともしていきます。

この中で市議の方から、私たち、このパイプラインは下水道の問題、においの問題とかあったのを引き受けたんだと、これについて。しかも、誰も自分の家の横にある焼却場は望んでないのを、このパイプラインではきちっと私たちは引き受けたんだと、こういうことも考えなきゃいけないよということで、よきアドバイスをいただきました。

3番目、これから、さっきもお話しした道路、橋、下水道、公共施設が膨大な費用がかかるということで、市の中で財政上、毎年20億円ほどかかるということで、この問題はパイプラインだけではないことをご理解くださいということで、私たちも、芦屋市のこれからの10年後の財政状態というのがちゃんとホームページに載っていますので、その条件を全部調べました。ほかの隣の市とか、あと神戸市の状況も調べながら、それを踏まえていかにパイプラインでコスト削減できるのかということを考えて、今回提案したところです。

4番目、パイプラインを20年で廃止するということに対する住民の方の温度差はどうなるんでしょうかということで、当然あると思います。そこで、私たちのほうで今説明会を一生懸命開いて、25以上の団体へ、きょう現在は説明しています。その中で、反対意見は1つありません。パイプラインを使用していない方の合意形成をどうするのか、諸外国の情報をどうやって収集するのか、その辺は全て記録に残したい。

何でかということ、代替案が出てくるのは早くても15年先になります。15年先というこ

とは、私が元気でいられるとは思いませんし、皆さんこの中に出ておられる方も元気でぴんぴんの方はおられないかもしれません。その当時になって、いや、そんなことは話してませんとか逃れられないように、議事録もちゃんと残し、データも全部残していこうということをしようと思っております。

それから、5番目、高齢化でゴミを捨てるのが厳しい方への対応をどうしていくのか。当然、ごもっともなご指摘ですということで、この協議会でもその辺の検討を、恐らくワーキンググループになると思うんですけども、きちっとしなきゃならないと同時に、管理組合、自治会もすべきことがある。

私たちのアステムA・B棟は、65歳以上になったら、元気なやつはお助け会に入らないかんのですよ。私はずっと拒否をしてたんですけど、65を過ぎてしょうがない。お助け会というのは、いろんなお助けをおじいちゃん、おばあちゃんのためにするんです。ゴミは玄関に置いてください。私たちがそれを1階まで運びますという活動をしてるわけです。

それから、車椅子も買いました。車椅子を、今、共用階に置いています。そしたら消防署からお叱りを受けまして、それはいいけども、それを上から捨てるやつがいると。ですから捨てられんような工夫をせえということでお叱りを受けましたので、今は鍵をつけております。鍵はそれぞれのお助け会のメンバーが持って、電話がかかったらその車椅子をさっさと持っていくように、そういういろんな工夫をそれぞれの自治会、管理組合はしたらどうかと思います。

6番目、パイプライン利用者にとって、20年よりも長く望んでおられるのではということで、現実の問題で、パイプラインを交換するだけで100億円かかりますので、そういう状況、建てかえの時期、パイプラインの劣化、そういうものを考えてC案をつくりましたというお話をしました。

それから、ゴミ減量審議会も含め、芦屋浜全体のまちづくりの中で、建てかえ問題とか人口減とかパイプライン問題を考えなきゃならないのではないのでしょうかと。まさしくそのとおりです。ですから、具体的な活動、人づくり、組織づくりがいうんじゃなくて、もうそろそろどなたかがリーダーシップをとってやっていくと。私たちの活動はその第一歩ですよということをお話ししました。

8番目、これはある議員さん、パイプラインに昔から真剣に取り組んでおられる方がおられます。その方の意見です。僕は感動しました、これをおっしゃったんで。ああ、



この方は私たちの活動の本質をきちっと把握してはる。そういう方がこの提案書を見ただけでわかるのはすごいなと私は思って、きょうこれを読ませていただきます。その方は、ちょっと長かったんですけど、短く。

「パイプライン施設はプラントですから、いつまでももつとは考えていません。芦屋浜に住んでる住民が、与えられた施設、パイプラインを率先して、自分たちが住むまちとして、足元の課題解決としての取り組み、その解決のために提案をされたことに敬意を表します。山側と海側の比較をする時代ではなく、利用者が与えられたものに限界がある中で、更新をするのか、違うものにステップを踏んでいくという中で、自分たちが住むまちづくりとして、足元の課題として提起をして取り組まれることはすばらしいと考えております。

住民の側からコミュニティーも含んで、こういうまちづくりが行政を取り込むきっかけとなればと考えます。これからの時代に合ったごみ収集、環境衛生をベースにしたまちづくりの入り口に入ったかもしれません。それを有効に使うのが行政であったとしても、一方主体である住民がまちづくりをしていくというスタート台に立っており、これからの展開をしていくことだと思いますということで、まさしく本当に私は感動しました。」

以上です。何か皆さん方からご質問があれば。

○利用者の会 春木です。よろしく申し上げます。

本当に山口さんを初め、友田さん、大永さん、本当に大変だったと、これからも大変ですけど、本当にご苦労さまですと感謝を申し上げたいと思います。

それと、ちょっと気になったんですが、先ほど藪田課長のほうから市のスケジュールをおおよそのところ説明されたと思うんですが、芦屋市の方針が出るのが、年内に出るのか、それとも来年明けてからになるのか、その辺のおおよそのところがわからないのがちょっと気になりましたね。今後、こういうことでまだ住民説明会もやられていって、住民の方の意見もいろいろ出てきてということになるんですが、その辺のスケジュールはどうかないのをちょっと気になりましたね。

こんなことを言うとあれなんかわからんけど、南芦屋浜のほうも平成26年度であったか、小学校建設いうので、施設用地ですね、説明会をやって、即今度は議員の反対があって中止やというようなことも、実際に私らは経験してまして、その辺が非常に気になったところですよ。極端に言うと、これまでどおり、市のトップの方針で変わらず

に結果が出てくるというようなこともちょっと気になりますし。

それ、まだスケジュールがわからないかないのが気になった、これの絡みでずっと進んでいく中で、市の方針がどの辺で出るんかないのがちょっと気になったところで、その辺がまだちょっと、今のところはまだ全く白紙ということなんですかね。その辺がちょっと気になったところです。

○市 環境施設課の藪田です。

まず、この説明会ですね、非常に丁寧にやっていただいております、利用者の会の皆様には本当に感謝しております。聞いてますと、市に対する質問とかご意見なんかも、我々のかわりになって答えていただいているような形になっております、本当にありがたいと思っております。ありがとうございます。これからもまだ続くということですので、本当によろしくお願ひしたいと思ひます。

○利用者の会 ぜひ続けてください。

○市 それと、先ほどの春木委員のご質問ですけども、スケジュール的なお話しです。

本来であれば、そろそろ市の方針というのを出したいという計画をしておったんですけども、今、説明していただいたとおり、非常に丁寧にやっていただいている状況、11月からは各集会所でまた住民説明会をしていただけるということですので、やはりこのことを非常に重く受けとめていますので、できれば、我々としたらちょっとこの状況を待ちたいなと思っております。

以上です。

○市 それでは、ほかに何かございますでしょうか。

○利用者の会 できるだけ早いことその辺を十分、これを理解していただいて、その方向になるようにぜひ頑張ってください。もしそれが、焼却炉の更新時期なんかも含めて、10年後やとか、もうほかと一緒にやうふうな極端な例が出たら、非常にここでもた戸惑うことになるん違うかなという、要らん心配をちょっとしてましてね。そやから、その辺ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

○市 ありがとうございます。

それでは、続きまして議題5、その他ということで長谷委員さんのほうからお願ひします。

○利用者の会 少しお時間をいただきまして、議題5のその他というところで、1枚別紙で添付されてると思ひます。潮見南自治会パイプライン対策委員会の方々からの説明

をしたいということでしたので、本来は私が説明すべきなのですが、委員会のメンバーが来てらっしゃるので、そちらの方で説明いただきたいと思うんですが、よろしいでしょうか。

お願いします。

○傍聴者 おはようございます。潮見南の野村でございます。きょうは発言の時間をいただきましてありがとうございます。

写真を出しながらやっていきましようか。

たまたま、私は8月にヨーロッパへ家内と遊びに行っていて、8月18日にバレンシアで偶然、旧市街のほうで地下のところで地下にごみ箱がある、ピットのごみ箱を見ました。たまたまなんですが、たまたまうちの家内がそのピットのところで乗ってましてね、たまたまその家内がいてまして、その家内がその地面の上に乗ったときに、ぴゅっとこの地面が上がり出したんです。「え」となって、うちの家内はびっくりして、で、ごみのパッカーのオペレーター—うんか運転手のおじさんが笑うて下げてくれて、「え」と思って見ると、地面からずっとそのごみ箱が上がってきて、こういう、ちょっとこれとは違うんですけど、こういうごみ箱が出てきて、そのごみ箱を遠隔操作でぴゅっと上げて、上がってきたものを、そのごみ箱を出して、それをそのオペレーターの人1人です。1人のその方がそのごみ箱を後ろのパッカーの—とこへ積んで、持ち上げて、自動的にそのごみ箱を出すと。

そのときにはそれほど私も気にしなくて、ああ、こんながあるんやというて見るだけで、実際、写真にも撮らなかったので、それだけのことやったんです。それが、後になって帰ってから非常にこれはおもしろいなと気になりましてね。それで、これ、芦屋にも使えるんじゃないかというので、ちょっとインターネットだとかで調べたり、スペイン大使館にも今ちょっと問い合わせを出してる次第ですけども、なかなかおもしろそうやなと思った情報なので、潮見南のメンバーと利用者の会の有志の方とにこの情報を流させていただきました。

自治会の会合が南のほうであったものですから、そのときにも紹介させていただきました。で、なかなかこれはおもしろいやな—ということの賛同をいただきましたので、また、利用者の会の山口さんにもきょう紹介することを了解いただきましたので、紹介させていただきたいと思います。

写真ではこういう形で地面がおりてたのが、ずっと上がってきてごみ箱が出てくる。

ごみ箱が出てくると、この後の、私もその写真がないんで、なかったんですけど、たまたま浅田さんが日本にもあるよという、きょうもお越しいただいているんですが、それで写真をいただいて、ああ、このとおりやということですね。

こんな形の、これ、日本にもこういうパッカー車があるようなんですけども、このごみ箱をこういう形でこう反転させて中へ入れるということであれば、これが採用できるん違うのということの1つの案として、取り上げていただきたいなと思っておりますね。今、潮見はこんな状態ですよと。私のバレンシアで見たごみ箱というのは、こんな感じのごみ箱なんですね。

それで、みんなで地下ピットの利点つちゅうのはどんながあるやろうということで、ちょっとまとめさせていただきました。それが「地下ピットの利点」。

1番、景観が保てる。住みやすいまち、住んでみたい町にふさわしい。

2番、現在のパイプラインのシステムと投入方法が同じで違和感がない。

3番、現在、地下ピットの利用できる、今現在地下のピットがありますので、それに関して、これは流用できるん違うかと。浅田さんに地下ピットの写真をいただいているんですが、これかな。これですね。

これはちょっと見にくいかもしれませんが、これ、ちょうどこの幅が3メートルぐらいですかね。何ぼになってんのかな。どちらにしても、ちょっとこれ、僕、数字が見えないんですけども、この深さに関しては、ここからここまで約2メートル50ぐらいです。ピットとして必要なのは、ここにパイプが通ってますから、この上になるこの部分でできるんやないかと。この幅も、この幅が、これは何ぼになる、1,400ですか、1,400でこっち側が3メートルぐらいあるものですから、その中にピットがおさまるものはつくれるのではないかと、そういうふうにとちょっと考えております。

4番としては、維持管理は住民の負担というのか、住民はほとんどこれをしなくてもいいと。普通、ごみの置き場があつたりしたら掃除するとかそういうのが余り、軽減されるのではないかと考えております。現在のパイプラインのシステムの維持管理費よりも断然安くつくだろう。

6番、現在のパイプラインシステムと同じ衛生面・カラス対策に有効である。

7番、2名体制で対応できるのではないかと。これは、オペレーターというのかごみの収集の方ですね。それで人件費の節減が可能じゃないかと。

それから8番、地下ピット内の、これ、今の写真で見ていただいて、これ、油圧で昇

降するような形になってるんですが、これであれば簡単な昇降機なので、メンテナンスに関してそれほど難しくないのではないかと、必要としない。

9番、収集員が直接ごみに触れないので、作業中の安全性が保てる。これ、ごみの箱に入ったものをパッカー車に自動的にいくわけですから、ごみ収集のときのいろんな収集員の方も安全性が保てるのではないかとということですね。

それから10番、今後、パイプラインの非利用地域への拡大も考えられる。芦屋市の全体のモデルになる。将来的には、他の地域への拡大の可能性もある。これは、浜だけでなく、芦屋でも駅前とか市街地には、ごみ箱が見えないというので非常に有効だと思うんですね。

これはヨーロッパでも、調べてみると、そんなに古くからあった設備ではなくて、最近できて、特に景観を重視するところ、ヨーロッパで採用されてる、私、たまたまバレンシアは歴史地区というのか古い町並みの中にあっただけですけども、ほかにあるところが、今調べてる限りではイタリアのフィレンツェですね。フィレンツェも、ちょうど花時計のある、プラッツァというのか広場がありまして、その広場の中にある。それもやはり古い地域で景観を重視してるところで、何かイスタンブールにもあるんですけど、それもやはり古い、旧市街地の中のやっぱり町並みを保ってるところ。

だから、その意味では、今後これはほかにも提案を広げていくことができるのではないかと、皆さんに紹介させていただきたいと思ってきょうお話をさせていただきました。

それで、ちょっと待ってくださいね。これが動いてるところがあるものですから。

こんな形で昇降して、こう上がってくると。ごみ箱を出して、持ってくと。

(映像上映)

こんな感じのシステムで、これはなかなかおもしろいシステムやと思いますので、今後グループEで、代替案の1つとして皆さんでも検討いただけたらどうかと思って提案させていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○市 ありがとうございます。

それでは、ちょっと、はい。

○利用者の会 有志の会、長谷でございます。

少しだけ補足させていただきますと、今、紹介されたものについては、説明にもありましたように、ヨーロッパでは非常にスタンダードに普及してるやつなんですよ。た

だ、少し日本と考え方が違うのが、日本の場合はごみを直接そちらに収集係の人が収集していくというシステムなんですね。ところが、感染であったり事故であったりとか、パッカー車自身の火災であったり、いろいろなものがあると。

それに対して、直接作業員が手を触れないという、そういう発想で普及していったそうです。特に石畳の文化の多い地域ですから、わざわざ石を割ってつくるということについてはすごい費用がかかるそうですけど、そういう意味では新しい発想として、15年先どうなってるかわかりませんが、こういうこともいんじゃないかなと思います。

ちなみに、私も本会議で紹介させていただいたのは、この地域の話ではなくて、芦屋は景観軸を基準にしていろんなことを計画されてますよね。JR南の再開発も含めて、そういうところに、最も芦屋にふさわしいんじゃないかなと提案させてもらってるので、ぜひ全市的に普及していけばいいまちになるんじゃないかなと思います。ちょっと補足させていただきました。

以上です。

#### ○利用者の会 野村さん、どうもお疲れさまでした。

これは提案ですけども、当然、グループEで検討していく課題だと思います。私の提案は、まず市にこういうアイデアとかいろんな情報があるので、藪田さんのほうにまず全部出そうと。そこでずっと保管していただくと。いろんな人がそれをいつでも見られる状態にしたらと思います。

なぜならばです。ここから問題です。まだ15年先の話なんですね。ですから、いろんなものが出てくると思いますので、きょうあすこれをどうじゃこうじゃという話はないと私は思っています。

もう一つは、さっき春木さんからご質問があったように、私は藪田課長、それから部長を信頼しておりますけど、市長が私たちの提案を受けるという話はまだないわけです。受けるか決まってないのに、代替案のことを一生懸命考えたのを市長がのまなかったら、それで私たちの努力はある程度無駄になります。ですから、市長がこれはいこうとおっしゃってから、安心してグループEで検討するというのがより現実的かなと私自身は思っております。

いろんなアイデアがあると思いますので、私もひとつトルコの方式を見つけてきましたので、皆さん方に、まだ時間があるので、5分ぐらいで終わりますので。考え方は野村さんと一緒です。ヨーロッパはこんな感じですよ。ちょっとやり方が違います。

ビデオで、すぐ終わります。

これはトルコの会社です。トルコの会社のそのシステムのブランド。風呂屋さんの社長さんです。小さな、あんまり大きな会社じゃないです。風呂をつくってる。ここ、FRP。工事状態から全部見られますので、どんなふうに据えつけてるか。輸出してるのが。日本にはまだ来てません。これ、イスタンブール。従来はこうですよ。こういうふうになってます。分別で、これが本体です。

ちょっとわざとらしいですけどね。これが風呂屋さんのもうかるところ、FRP。じゃあ、どうやってごみを取り出すんやという、これから。

(映像上映)

ということで、世界にはいろんなものがあると思いますので、これはグループEで、まずそういう資料を集めてのどこからスタートして、市長が、これで、私たちの提案でいいと、市のお金を使ってもいいということであれば、それからじっくり検討していこうということで、私は提案をしていきたいと思っています。

○市 ありがとうございます。

それでは、ちょっとご意見のほうを。

○利用者の会 どうもご紹介ありがとうございました。山口さんも、非常に斬新なやつを見せていただいて、こういうのもあるんやないう気がします。

ほんで、それと、先ほどの住民の説明会いうか、あの中で、山口さんも感動されたと言われましたけど、この中の各市議よりの一番最後のところですね、私もちょっと感動しました。一番最後のところですね。

住民の側からコミュニティーも含んで、こういうまちづくりが行政を取り込むきっかけになればと考えます。これからの時代に合ったごみ収集、環境衛生をベースにしたまちづくりの入り口に入ったかもしれません。それを有効に使うのが行政であったとしても、一方主体である住民がまちづくりをしていくというスタート台に立っており、これから展開していくことだと思います。

私もこれ、非常に賛成ですし、私もこういう意見であります。したがって、今回これがまた新たなスタートとして、ぜひとも活動を継続していただきたいなと思っています。

ほんで、またこの代替案についても、今見せていただいたように、やっぱりこれも実際に行政の担当、いうたら藪田課長、尾川さん、林さんですね。まだ猶予があると思

いますので、ぜひとも今後とも、この議論を継続していただきたいと思いますし、また今後ひょっとしたら新たな部分を、住民の皆さんも海外へ行ったときに、こんなあるで、もっとええのがあるでというのも今後、まあ日本もそうですけど、出てくる可能性も全くないということではないと思いますので、ぜひとも、山口委員長も言われてますように、グループEでこれがスタートとして、ぜひ芦屋市、日本一のごみステーションの開発で、ひょっとしたら人口対策の今後の一助にもなるかもわかりませんし、こんな便利なまちがあるんやというような、ぜひそういう気持ちでやっていただきたいと思いますので、今回スタートとしてスタートラインに立ったわけですから、ぜひお願いしたいと思います。

それともう一つは、先ほど言いましたけど、市長の方針がどういう結果であれ、私としたら続けてほしいなと思うてます。まだ数年ありますし、たとえ今回思わぬ結果であったとしても、いろんな状況変化はありますし、人口減ももう芦屋市も目に見えますし、いろんな状況もありますので、結果がどうであれ、グループEで浅田さん、プロの方がおられますので、ぜひやっていただきたいと思います。

それともう一つは、やっぱり現状把握ですね。私は前からちょっと思うてたんですが、アドレス別の満杯運転、これをある期間やってほしいというのがもう最初からずっと思うてることなんですけど、それはやっぱりアドレス別に、どんだけの容積が要るんやいう、その検討する参考資料になるとも思うてらんですよ。芦屋浜やったらコンマ7立米ですね。南芦屋浜やったら1.5立米とかちょっと大きいんですけど、それがそれぞれの地域で世帯も違いますし、どんだけごみが出てくるんやと、容積で。そしたら、今後いろんなことを検討するにしても、現状把握の1つとして活用できるん違うかないう、これがありますので。

これは個人的な意見ということで捉えていただけたらと思います。これからもぜひよろしくお願いしたいと思います。

#### ○利用者の会 三宅です。

結局、皆さんのいろんな意見が出てくるとアイデアも出てくると思うてらんですよ。だから、これをその台にさせていただいて、今回の議員さんとか市長さんとかいうのはそれぞれは任期がありますけど、我々、何と申しますか、利用者の会というのは継続可能ですし、それからそちらの担当の人たちも、それは部署がかわらなければこれはずっと続けられるし、それから仮にその担当の人がかわったとしても、これは継続でき



る話ですよね。市長なんかは、立候補して落選したらおしまいですし、「私、引退します」言うたらおしまいです。

だから、そういうことではやっぱりこの芦屋の体制で、よその市から見て「ああ、芦屋市は文化的にいいまちやな」と言われるようにするためには、市長がかわったらおしまい、議員さんは全部考え方が変わってしまったということになってしまったら、やっぱりこれは継続できないと思うんですね。そういう意味では、これを継続させていただくということは、市長がかわってもこれが続いていくんだというのが、やっぱり市あるいは私たち皆そろって要求していくことが大事やと思います。そういう意味では、よろしくをお願いします。

○市 ありがとうございます。

皆さんの知恵をおかりすると、いろんな案が出てくると思います。ですので、これからもこの場で検討というのを続けていったらいいと思うんです。ですので、今1個出てきたから、それについてああこうだというよりも、もっとほかにもあるかもしれないので、きょう来ていただいている皆さんからも、もし何かもっとほかにもこんながあるよとかありましたら、またどんどんと教えていただきたいなと思います。

それらのいろんな方法を見ながら、考えながら、より合理的なというんですかね、その利便性とか景観の面、当然費用の面とか合理的なやつを探していけたらなどは思っておりますので、またぜひ皆様のご協力もお願いしたいと思います。ありがとうございます。

○市 それでは、もうございませんでしょうか。

それでは、今度は議題の6ですね。今後の協議会のスケジュールということで、次回なんですけども、10月28日土曜日、同じ時間、10時からということで考えております。よろしいでしょうか。

(日程調整)

○市 はい。これで第13回ゴミパイプライン協議会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。